



**中学総体における生徒の
交通手段の確保と現状は**



鈴木 一彦 議員

△質問▽

六月二日・三日に、市内中学生の部活動の総決算とも言われるべき市内の中学総体が開催されたが、今まで新治中学校は、一自治体に一つの中学というだけで、試合会場まで村保有のバスで送迎が行われていた。合併後は、他の中学と同様に保護者による送迎となった。総体は、教育活動の一環であるので、市の中学校の総体における生徒の交通手段の確保と現状について伺う。

△教育長▽

土浦市中学校総合体育大会における生徒の交通手段としては、市内十会場を八つの中学校の生徒が移動し、さらに市内の会場ということもあり現地集合の形をとり、保護者のご協力を基本に生徒の送迎をしていただいている。県南大会以上の大会については、土浦市のバス又は民間のバス

借り上げにより移動を行っている。借り上げバスについては、一部を補助しているが、単独の部活でバスを借り上げる場合は、補助金で賄えない部分があるので、各中学校の教育後援会にご協力を頂いている。教育後援会は、生徒の保護者や地域の有志の方々で構成され、地域で学校教育を支えていただくという有り難い組織であり、部活動も含め、学校教育活動全般に渡り支援いただいているという面があるのでご理解願いたい。

〔掲載以外の質問事項〕

- 二 中学生の体験学習について
- 三 個人情報情報の取り扱いについて

常磐線の東京自由乗車券発売中止について



内田 卓男 議員

△質問▽

東京自由乗車券は、東京フリー区間で乗り降りが何回も出来る便利な往復切符で、つくばエクスプレスと比較しても大変お得であり、常磐線の

強みでもあった。自由乗車券がなくなると常磐線沿線自治体のポテンシャルが落ちたといわざるを得ない。常磐線とつくばエクスプレスは競合関係にあるという意味で、これらの事実をどう捉えているか伺う。

△市長▽

東京自由乗車券は、発売開始から三十年以上経過し、当時の東京駅周辺の駅では自動券売機の台数が十分でなく、窓口の混雑・不馴れな券売機で買わなければならない不便さを解消するために発売していたと伺っている。平成十三年から、自動改札口にカードでタッチするだけで改札できるよう利用客の不便を解消に努めた結果、自由乗車券の販売実績が減少傾向にあることから、所期の目的が果たされたとの判断に基づき、廃止したとのことである。利用者の利便性向上は、沿線の地域の振興を図る上で非常に重要である。こうしたことを踏まえ、

常磐線複雑々線化促進期成会、県南常磐線輸送力増強期成同盟会の二団体においても、自由乗車券の復活をJRに対し要望してまいりたい。

〔掲載以外の質問事項〕

- 二 土浦駅前北地区第一種再開発事業並びに同事業に係わる都市計画道路『駅前東崎線』について
- 三 通称びつくりガードに交差する市道「小松一丁目一号線と富士崎一丁目九号線」の整備について
- 四 天川地内の市道Ⅱ級十四号線と永国台地内の市道永国八十七号線が、雑木林を挟んで、行き止まりになっている現状について

新市建設計画における県道整備について



上野 悦男 議員

△質問▽

新市建設計画における県道整備、主要地方道つくば・千代田線、一般県道小野・土浦線、一般県道藤沢・荒川沖線、土浦線、都市計画道路土浦・土浦線、一般県道牛渡・馬場山・新治線、これらについて、県との協議をどこまでされているか、進捗状況はいかがなものか、伺う。

△建設部長▽

主要地方道つくば・千代田線は、沢辺地内で交差点改良に伴う用地買収の準備をし、大志戸地内での交差点改良工事は、平成十八年十二月に竣工すると伺っている。一般県道藤沢・荒川沖線バイパスは、平成十七年度末で約三十五パーセントの事業進捗、一般県道牛渡・馬場山・土浦線は、幅員三・五メートルの歩道を整備すべく測量、用地買収が進められている。都市計画道路土浦・新治線は、総延長十二キロメートルのうち約七キロメートルについて供用開始をし、平成二十二年の全線開通を目指している。一般県道小野・土浦線は、下坂田農村集落センター付近からりんりん道路までの四百メートルの区間について、県道として整備をしていただくべく、現在協議を進めている。

〔掲載以外の質問事項〕

- 一 (1) 沢辺地内・国土産業団地道路認定について

